

# 九州国立博物館

(福岡県立アジア文化交流センター)

## 個別施設計画

施設類型	県民向け施設
整理番号	17
施設所管課	文化振興課

令和3年2月

❀福岡県❀

# 九州国立博物館個別施設計画

## 目次

### 第1章 概要

- (1) 対象施設の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- (2) 対象施設の活用状況・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- (3) 計画期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- (4) 位置図等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

### 第2章 優先順位の考え方

- (1) 施設間の優先順位・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- (2) 施設内での優先順位・・・・・・・・・・・・・・ 3

### 第3章 個別施設の状態等

- (1) 個別施設の状態・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- (2) 施設の現存率・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- (3) 目標耐用年数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

### 第4章 対策の内容等

- (1) 改修・更新について・・・・・・・・・・・・・・ 8
- (2) 対策の平準化について・・・・・・・・・・・・・・ 8
- (3) 対策の内容等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

## 第1章 概要

### (1) 対象施設の概要

対象施設	九州国立博物館（福岡県立アジア文化交流センター）		
所管	人づくり・県民生活部文化振興課		
整理番号	17	竣工年度	平成15年度
所在地	福岡県太宰府市石坂4丁目7-2		
敷地面積	159,844 m <sup>2</sup>	建築面積	16,275.33 m <sup>2</sup>
主構造	SRC造、S造	延べ床面積	32,288.79 m <sup>2</sup>
主要建築物	本棟、レストラン棟、アクセストンネル、茶室		

### (2) 対象施設の活用状況

建物の名称	九州国立博物館 本棟				
棟番・枝番	201	—	1	竣工年度	平成15年度
建築面積 (m <sup>2</sup> )	14,622.62		延床面積 (m <sup>2</sup> )	30,675.41	
構造・階数	SRC造、S造 地上5階、地下2階				
各階面積及び用途					
階別	階床面積(m <sup>2</sup> )	主な用途(室名他)			
5F	1,203.24	機械室、サーバー室			
4F	842.28	機械室			
3F	9,466.33	展示室			
2F	4,542.62	展示室			
1F	12,422.81	収蔵庫、事務室、文化財修復室			
B1F	1,347.64	エントランス、ホール、研修室、他			
B2F	850.49	機械室			

九州国立博物館は、東京、奈良、京都に次ぐ4番目の国立博物館として、平成16年3月に竣工し、平成17年10月に開館しました。「日本文化の形成をアジア史的観点から捉える」をコンセプトとし、文化財資料の収集、保存、管理、展示、調査研究、教育普及事業等を行っています。

組織としては、『独立行政法人国立文化財機構 九州国立博物館』が、主に展示機能及び博物館科学（文化財の保存修復等）機能を担当し、『福岡県立アジア文化交流センター』が情報機能、交流機能及び教育普及機能を担当し、両者が連携・協力し一体として、管理運営を行っています。

この計画は、博物館全体に関するものであり、改修にあたっては、独立行政法人と県との間で締結した協定書に基づく負担割合により、共同で実施します。

(3) 計画期間

計画期間は令和8年度までとします。

(4) 位置図等

①位置図



②施設写真



## 第2章 優先順位の考え方

### (1) 施設間の優先順位

当該施設は、築16年で目標使用耐用年数である65年に満たないことから、計画期間中の躯体そのものの建替えは計画しておりませんが、多数の来館者を迎え、国宝や重要文化財をはじめとする貴重な文化財を多く収蔵する国立博物館であるため、安全性の確保や文化財の保存に適切な環境の維持が不可欠であり、優先して改修等が必要です。

### (2) 施設内の優先順位

人命に関わる設備を第一優先とし、文化財保護に関わる設備を第二優先という考えを基本とします。

また、耐用年数を超えている設備等の改修を優先的に実施し、その他についても老朽化・不具合が目立つものについては、予防保全の観点から順次改修を実施します。

さらに、自動制御設備、防犯電気設備など、電子機器関係は耐用年数が20年から25年であるものが多く、これから4～5年の間に立て続けに故障していく恐れがあるため、優先的に更新していく予定です。

### 第3章 個別施設の状態等

#### (1) 個別施設の状態

建築では、全体的にシーリングと鉄部塗装の補修が必要な部分が散見されますが、計画期間内に大規模な改修を要する部分はありません。

一方、各設備機器等においては、一般耐用年数を超えたものが多く、オーバーホールや機器更新を計画する時期となっています。

#### (2) 施設の現存率

現存率算定表

施設名称	九州国立博物館		建物名称	九州国立博物館 本棟				
所在地	福岡県太宰府市石坂4-7-2		棟番・枝番	201	-	1	築年数	16年
建築年度	平成15年度	建築面積	14,622.62 m <sup>2</sup>		現存率	81.6	想定耐用年数	65年
構造・階数	SRC・S 地上5F 地下2F	延面積	30,675.41 m <sup>2</sup>					
区分	項目及び①評価比率(%)		仕様	経過年数	②各部位の現存率	①×②		
構造	躯体	40	SRC・S	16	100.0	40.00		
	小計						40.00	
主要部仕上げ	屋根・防水	20	チタン溶接工法	16	63.0	12.60		
	外壁	20	カーテンウォール	16	75.0	15.00		
	小計						27.60	
電気設備	受変電設備	10		16	70.0	7.00		
	小計						7.00	
機械設備	給排水・衛生・給湯設備	10	受水槽・加圧給水方式	16	70.0	7.00		
	小計						7.00	
合計						81.60		

この結果、九州国立博物館の現存率は、「81.6」となります。

○ 建築物各部位の現存率評価

調査部位	種類・形式等	各部位の現存率	判定項目	判定
躯体	SRC・S	100.0	耐震診断による Is 値 <sup>1</sup>	Is が 1.0 以上もしくは新耐震基準
屋根	チタン溶接工法	63.0	防水層からの漏水 またはその痕跡	・部分的にひび割れや部材の劣化がある ・少数の部材に少しの劣化がある
			防水層の劣化	
			経年 (新設もしくは改修後)	経年 15 年以上
外壁	カーテンウォール	75.0	外壁のはく落、浮き、ひび割れ等の劣化	・部分的にひび割れや部材の劣化がある ・少数の部材に少しの劣化がある
			漏水の発生・痕跡の有無	
内壁	ビニールクロス・その他	75.0	劣化	仕上げ材等に劣化が部分的に発生しているが機能上問題なし
天井	LGS・木軸ケイカル板・その他	75.0		
床	ビニール床タイル張り・その他	75.0		
建具	SD・アルミニウム製建具	75.0	劣化	仕上げ材等に劣化が部分的に発生しているが機能上問題なし
			開閉作動・取付け状態	
電灯・電話設備	電灯 電気時計 拡声設備 避雷設備 電話設備	55.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年 (新設後更新後)	経年 15 年以上
受変電設備	受変電設備	70.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年 (新設後更新後)	経年 10 年以上
自家発電設備	自家発電設備	70.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年 (新設後更新後)	経年 10 年以上
動力設備	動力設備	40.0	経年 (新設後更新後)	経年 10 年以上
非常用照明・火災報知器設備	非常用照明 火災報知器設備	55.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年 (新設後更新後)	経年 15 年以上

<sup>1</sup> Is 値：構造耐震指標。Is $\geq$ 0.6 で地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、または崩壊する危険性が低い。

調査部位	種類・形式等	各部位の 現存率	判定項目	判定
空気調和・ 換気・排煙 設備	空調方式 冷熱源機器 温熱源機器 排煙方式	43.0	定期点検等の結果	使用上、管理上の問題を 指摘されたが、機能上問 題なし
			経年 (新設後更新後)	経年 15 年以上
給排水・ 衛生・ 給湯設備	給水方式 水槽 給湯 ガス	70.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年 (新設後更新後)	経年 10 年以上
消火設備	消火設備	87.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年 (新設後更新後)	経年 10 年以上
エレベーター 設備	エレベーター 設備	42.0	定期点検等の結果	重大な欠陥又は是正箇 所の指摘があり、大規模 修繕が必要
			経年 (新設後更新後)	経年 10 年以上

○ その他主な施設・設備の状態

名称	主な部位 (材料・機器等)	現状及び対策
レストラン棟	外壁・屋根 客室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的に、経年に応じた劣化があるが、特に異常なし</li> <li>・定期的に点検し、適宜改修を実施</li> <li>・経年 16 年 (耐用年数 38 年)</li> </ul>
茶室	外壁 内部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的に、経年に応じた劣化があるが、特に異常なし</li> <li>・定期的に点検し、時期を見て改修を実施</li> <li>・経年 11 年 (耐用年数 24 年)</li> </ul>
天満宮アクセ ストンネル	天井 内壁	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経年及び地震等の天災によるものと推測される、 損傷等が確認できるが、構造上の問題は無い</li> <li>・来客者が通行する部分であるため、補修を実施</li> <li>・経年 15 年 (耐用年数 38 年)</li> </ul>
斜行リフト (アクセス トンネル内)	下部ローラ サポートローラ 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予防保全の観点から耐用年数を目途に更新する</li> <li>・経年 4 年 (耐用年数 5 年)</li> </ul>
動く歩道 (アクセス トンネル内)	テールプーリ 用軸受、ヘッドプー リ用軸受 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・耐用年数を超過しているが、損傷が見受けられない</li> <li>・時期を見て、取替を行う</li> <li>・経年 15 年 (耐用年数 10 年)</li> </ul>



(3) 目標耐用年数

建築年	経年	耐震性能		鉄筋 腐食土	平均 圧縮強度	中性化 深さ	目標 耐用年数
		耐震基準	補強後の IS 値				
2004	16	新	—	—	—	—	65 年

経年による部分的な劣化は見られるものの、建物に大きな問題が無い場合、目標耐用年数を原則通り 65 年（残年数を 49 年）と設定します。

## 第4章 対策の内容等

### (1) 改修・更新について

築16年で、耐用年数を65年と設定しているため、残利用年数は49年となり、計画期間に施設の更新（建替え）を行う予定はありません。計画期間内の改修費用は約13億円となっています。

### (2) 対策の平準化について

優先順位の考え方に沿った上で、費用や事務負担軽減等を図る観点から平準化を行い順次改修を行うこととします。

まずは、耐用年数を超過し、故障が頻発している自動制御設備の部品交換を主に実施します。それに引き続き展示室照明のLED化を実施します。さらに、これら以外についても順次改修を行います。

### (3) 対策の内容等

以上の結果、計画期間内の取り組みは以下のとおりとなりますが、取組みの進捗状況等を踏まえ、必要に応じて計画の見直しを行うことがあります。

(単位：百万円)

区分	項目	実施期間			計
		2～3年度	4～6年度	7～8年度	
主要部仕上げ	屋根、外壁、内壁、天井、床、建具	155	11	2	168
電気設備	電灯・電話設備、動力設備、非常用照明・火災報知設備、その他設備	0	329	3	332
機械設備	空気調和・換気・排煙設備、給排水・衛生・給湯設備、消火設備、エレベーター設備	53	422	5	480
その他	レストラン棟、茶室、天満宮アクセストンネル、その他設備	24	96	202	322
計		232	858	212	1,302

※1 実際の子算や事業費等とは異なります。

※2 計画期間内における県負担額を記載しています。